

モニタリングレポート(令和3年度)

施設名	鈴鹿市第2療育センター				
施設所在地	鈴鹿市岡田701番地				
指定管理者名	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会				
評価担当課	障がい福祉課	問合せ先	059-382-7626		
施設の運営状況	(確認方法)月次報告, 事業報告書				
児童発達支援事業延べ利用者数	4,522名	放課後等デイサービス延べ利用者数	911名	保育所等訪問事業	22件
事業収支	(確認方法)事業報告書				
項目	計画値(単位:円)	実績値(単位:円)	計画比(単位:円)		
指定管理料	34,060,000	34,060,000	0		
障害福祉サービス等事業収入	65,610,000	65,991,044	381,044		
その他	280,000	400,094	120,094		
事業活動収入計	99,950,000	100,451,138	501,138		
人件費(給与・法定福利費等)	73,150,000	73,715,665	565,665		
事業費	2,022,000	2,231,696	209,696		
諸謝金	216,000	218,240	2,240		
保健衛生費	130,000	126,866	▲ 3,134		
保育材料費	330,000	274,767	▲ 55,233		
消耗器具備品費	882,000	1,171,247	289,247		
教育指導費	373,000	362,540	▲ 10,460		
車両費	73,000	60,491	▲ 12,509		
雑支出	18,000	17,545	▲ 455		
事務費	6,496,000	6,438,095	▲ 57,905		
福利厚生費・旅費・研修費	316,000	308,613	▲ 7,387		
事務消耗品費・印刷製本費	628,000	624,982	▲ 3,018		
水道光熱費	857,000	823,266	▲ 33,734		
修繕費	565,000	564,388	▲ 612		
通信運搬費	395,000	394,096	▲ 904		
会議費・広報費	10,000	9,091	▲ 909		
業務委託費	1,458,000	1,452,821	▲ 5,179		
手数料	67,000	68,716	1,716		
保険料	363,000	362,608	▲ 392		
賃借料・租税公課	1,135,000	1,140,908	5,908		
保守料・渉外費	702,000	688,606	▲ 13,394		
負担金	10,000	10,000	0		
事業活動支出計	81,678,000	82,395,456	717,456		
事業活動収支	18,272,000	18,055,682	▲ 216,318		
施設整備等による収支	▲ 553,000	▲ 308,880	244,120		
その他の活動による収支	▲ 5,000,000	▲ 4,998,819	1,181		
当期資金収支	12,719,000	12,747,983	28,983		

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	適切に履行されている
	現地調査	○	適切に履行されている
	定例報告会	○	適切に履行されている
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	要望はあるが、利用者は満足している
	現地調査	優良	利用者への支援内容は適切である
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表 (拠点区分)	○	純資産がプラスである。
	年度事業報告書 (収支計算書)	○	当期資金収支差額合計、当期末支払資金残高ともにプラスである。
	年度事業報告書 (財産目録)	○	資産が負債を上回っている。 (差引純資産がプラス)
年度業務報告書の内容評価			(適)・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力いずれの点においても適切に実施されている。			
定例報告会の頻度と内容の評価			(適)・不適
月1回の定例報告を受けている。 課題等については、随時協議を行っている。			
緊急時の対応評価			(適)・不適
報告を要する案件はなかった。 法人内部での報告体制はできており、必要事項は市にも報告される。 また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策も適切に実施している。			
指定管理者の総括評価			(適)・不適
業務の履行やサービスの質、業務遂行能力では問題はなく、また、児童発達支援センターとして、圏域における中核施設としての姿勢も良好である。			
施設の課題と対策			
令和元年10月に開設し3年目の運営となった。旧牧田幼稚園を改修した施設のため、利用にあたり注意が必要な環境(廊下が屋外に面しており、すぐに屋外に飛び出すことができる環境等)ではあるが、運営上の配慮を行い円滑な運営を行っている。 今後も環境面に対応した配慮を行い、利用者が安心して利用できる運営を行っていく必要がある。			
施設の方向性			
鈴鹿市第1療育センターとともに、「児童発達支援センター」として、本市の児童発達支援における中心的な役割を担っており、引き続き継続した運営を行っていく。			